

諸家系譜

位
 知
 中條
 千葉
 千種

太政官文庫			
三三九	三三九	和	書門
三三九	架	函	號類

内閣文庫			
三三九	三三九	和	書
三三九	架	函	號類

内閣文庫			
番號	和	32649	
冊數	225 (74)		
函號	156	23	

共二百廿五冊

共八十五



不.
古
原
全
二

系譜

江和原氏
古
原
氏
系譜

交
友
人
等
氏
系譜

源氏
知久
源氏

之屋至經基五甲從其信下相授分滿快其子
任其下甲也其滿圓其子從其信下由受寺
為滿其子從其信下中津來信讓寺為公
初名伊奈馬右馬今本人居任六代其知久九衛門
信讓因伊奈馬津來家名
平信負其知久之正嘉三戊午年正月
其知久之孫四郎元衛門入道祐起
奉唐南朝 南帝御授與之錦之由衣並車
之役之德將軍官甲長親至其賜之自此奉之
改車輪改公七代之孫從其信下大和守賴元
弘治二年武田晴信入道信玄之子其知久之孫
盡而知之神奉其知久之孫信元今月其知久

高橋元全子月本存者如心由本亦洋希之儀
界内所屬於之出子古子積所居臨二年
其白所居於之出子古子積所居臨二年
其子部所居於之出子古子積所居臨二年

甲辰親王より拜領之紋車輪

家之紋指環 尚以手箱お用し

望 紋 指 環

希之紋車輪

此之書 印之十之位所屬於之下

賴氏

又甲辰親王より拜領之紋車輪

書 望 紋 指 環

壬辰年壬辰年之位所屬於之下

神皇正統記 卷之四十五 二〇〇〇〇〇〇年

信長天皇御代

神皇正統記 卷之四十五 二〇〇〇〇〇〇年

壬辰年壬辰年之位所屬於之下

神皇正統記 卷之四十五 二〇〇〇〇〇〇年

望 紋 指 環

望 紋 指 環

望 紋 指 環

望 紋 指 環

望 紋 指 環

望 紋 指 環

那中、神志、
上ノ、
二十、
...

知人、
考、
...

...

七月廿九日、
...

...

川中村	田村	林村	山崎村
付中村	少門村	伊豆村	上野村
立平村	高田村	加藤村	柏原村
南多村	今田村	石村	きら村
上野村	とら村	中野村	上野村
打中村	いよ村	惣西村	山崎村

ほろむ村	あき村	たけむら村	たけむら村
あき村	たけむら村	たけむら村	たけむら村
たけむら村	たけむら村	たけむら村	たけむら村
たけむら村	たけむら村	たけむら村	たけむら村
たけむら村	たけむら村	たけむら村	たけむら村
たけむら村	たけむら村	たけむら村	たけむら村
たけむら村	たけむら村	たけむら村	たけむら村
たけむら村	たけむら村	たけむら村	たけむら村
たけむら村	たけむら村	たけむら村	たけむら村
たけむら村	たけむら村	たけむら村	たけむら村

中まき村の 土着村

北まき村

北まき村の 土着村

北まき村の 土着村

北まき村の 土着村

北まき村の 土着村

依之小跡、匿り
如坐の如く、
そなたのまゝに
取、手はひき
の神、しるは
形、ありて
と、神、しるは
所、ありて
行、

乞ふ事

此、
守、

口、
乞、

乞、

正、

正、

正、

藏人 虎中 謹啟
元慶

文亦幸 亦幸 亦幸 亦幸
後 亦幸 亦幸 亦幸
亦幸 亦幸 亦幸 亦幸
亦幸 亦幸 亦幸 亦幸
亦幸 亦幸 亦幸 亦幸
亦幸 亦幸 亦幸 亦幸

亦幸
亦幸
亦幸

亦幸 亦幸 亦幸 亦幸
亦幸 亦幸 亦幸 亦幸
亦幸 亦幸 亦幸 亦幸
亦幸 亦幸 亦幸 亦幸
亦幸 亦幸 亦幸 亦幸
亦幸 亦幸 亦幸 亦幸

形如牙

古の形を以て
其の形を以て

其の形を以て
其の形を以て

別注

其の形を以て

母

古

其の形を以て

其の形を以て

其の形を以て

其の形を以て
其の形を以て

其の形を以て
其の形を以て

其の形を以て
其の形を以て

其の形を以て
其の形を以て

其の形を以て
其の形を以て

其の形を以て

十以

古也 此道... 明... 許若

... 此... 許若

... 許若

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

年月日... 年... 月... 日... 年... 月... 日...
... 年... 月... 日... 年... 月... 日...
... 年... 月... 日... 年... 月... 日...

去

...

母

...

...

...

...

...

...

...

...

母

...

...

母

...

...

...

女子

母

母

長男

母

母

長男 長女 長孫 長孫女

長孫

母

母

長孫 長孫女 長孫 長孫女

女子

母

母

長孫

母

母

長孫 長孫女 長孫 長孫女

長孫

母

母

長孫 長孫女 長孫 長孫女

那也

母

凡外之者皆已之也子之也

母

凡外之者

子

母

凡外之者皆已之也子之也

母

凡外之者皆已之也子之也

那也

母

母

母

母

母

凡外之者皆已之也子之也

凡外之者皆已之也子之也

凡外之者皆已之也子之也

凡外之者皆已之也子之也

凡外之者皆已之也子之也

凡外之者皆已之也子之也

凡外之者皆已之也子之也

凡外之者皆已之也子之也

凡外之者皆已之也子之也

凡外之者皆已之也子之也

凡外之者皆已之也子之也

凡外之者皆已之也子之也

幸甚幸甚... 此後... 惟願... 仰祈... 謹此... 伏乞... 謹啟

佳辰

南朝に授け... 母衣... 此後... 伏乞... 謹啟

右母衣布

帝親儲也長久人

此後... 伏乞... 謹啟

三十八

地部改方意也

白苗矣
若と兼

諸乳白健指

南無摩利支天大士

南無大音

右系布

世伊勢天照上

召

無諷方上立大明神

高世大聖不

左と右とをくわへし

正元元年甲子年十一月十日辛卯日也

此の日は改方意也

少子 正元元年 改方意也

母 正元元年

少子 正元元年 改方意也

母

父 改方意也

母 正元元年

少子 正元元年 改方意也

正元元年 改方意也

リノ原侯様色目上ノ御用儀ハ此ノ如ク申上ル所ナリ
其ノ上ノ御用儀 了令所

申

御直上

申

若御用儀

若御

若御儀

頼重

一書

一書

申

申

若御用儀

申上ル所ノ御用儀ハ此ノ如ク申上ル所ナリ
其ノ上ノ御用儀 了令所
若御用儀
若御儀

此ノ如ク申上ル所ナリ
其ノ上ノ御用儀 了令所

此ノ如ク申上ル所ナリ
其ノ上ノ御用儀 了令所
若御用儀
若御儀

去る月より新米の味はよわく
定曆二三日の八月の節は
新米の味はよわく
七月
八月の節は
九月の節は
十月の節は
十一月の節は
十二月の節は

去る

去る

去る

去る

去る

去る

去る

去る

去る

去る

去る

古

吉文 形至子 年

三

延喜の年... 日... 年... 年...

家... 日... 年... 年... 年...

日... 年... 年... 年... 年...

日... 年... 年... 年... 年... 年... 年... 年... 年... 年...

形

日 年

日... 年... 年... 年... 年... 年... 年... 年... 年... 年...

三子あり

長子也

中子也

母

打屋女子と云ふ也

此ノ人其ノ中ノ事ヲ以テ其ノ事ヲ其ノ事ニ
其ノ事ニ以テ其ノ事ニ以テ其ノ事ニ以テ其ノ事ニ
其ノ事ニ以テ其ノ事ニ以テ其ノ事ニ以テ其ノ事ニ
其ノ事ニ以テ其ノ事ニ以テ其ノ事ニ以テ其ノ事ニ

相成

相成

相成

主文

相成

主文

相成

相成

母

相成

相成

相成

母

相成

相成

相成

母

相成

本

相成

七代列傳

あはれなることなりしやうに世を治むる道に
 学んずればおれらもその道に志すべし
 一は徳也
 二は才也
 三は力也
 四は徳也
 五は才也
 六は力也
 七は徳也
 八は才也
 九は力也
 十は徳也
 十一は才也
 十二は力也
 十三は徳也
 十四は才也
 十五は力也
 十六は徳也
 十七は才也
 十八は力也
 十九は徳也
 二十は才也
 二十一は力也
 二十二は徳也
 二十三は才也
 二十四は力也
 二十五は徳也
 二十六は才也
 二十七は力也
 二十八は徳也
 二十九は才也
 三十は力也
 三十一は徳也
 三十二は才也
 三十三は力也
 三十四は徳也
 三十五は才也
 三十六は力也
 三十七は徳也
 三十八は才也
 三十九は力也
 四十は徳也
 四十一は才也
 四十二は力也
 四十三は徳也
 四十四は才也
 四十五は力也
 四十六は徳也
 四十七は才也
 四十八は力也
 四十九は徳也
 五十は才也

物産 母り

此の書は...
 物産

母 女

信...
 母

母 女

如...
 母

母 女

物産

物産 母り

物産 母り

物産 母り

古 書 同 古 書 同 古 書 同
古 書 同 古 書 同 古 書 同
古 書 同 古 書 同 古 書 同
古 書 同 古 書 同 古 書 同

古 書 同
古 書 同 古 書 同 古 書 同

古 書 同 古 書 同 古 書 同
古 書 同 古 書 同 古 書 同

古 書 同 古 書 同 古 書 同

古 書 同 古 書 同 古 書 同

古 書 同 古 書 同 古 書 同
古 書 同 古 書 同 古 書 同

古 書 同 古 書 同 古 書 同
古 書 同 古 書 同 古 書 同

知之家書

知之家書

如久平山申書

上様至御奉立曾相様女信快吉子申北各満國
其子申此子為厚為之流此子為云信厚儀國之
信子申此子為厚為之流此子為云信厚儀國之
此子申此子為厚為之流此子為云信厚儀國之
此子申此子為厚為之流此子為云信厚儀國之
此子申此子為厚為之流此子為云信厚儀國之
此子申此子為厚為之流此子為云信厚儀國之
此子申此子為厚為之流此子為云信厚儀國之
此子申此子為厚為之流此子為云信厚儀國之
此子申此子為厚為之流此子為云信厚儀國之

横濱様 清月之代伊勢守長連列治信長

修列四國志其七乃のりては
作らば是はは偽相の心也 作ら
七別表はは偽相の心也 作ら
之を以て之れは偽相の心也 作ら
は偽相の心也 作ら
今國志の修列のりては
之を以て之れは偽相の心也 作ら
は偽相の心也 作ら
今國志の修列のりては
之を以て之れは偽相の心也 作ら
は偽相の心也 作ら

入 上卷のりては
之を以て之れは偽相の心也 作ら
は偽相の心也 作ら
今國志の修列のりては
之を以て之れは偽相の心也 作ら
は偽相の心也 作ら
今國志の修列のりては
之を以て之れは偽相の心也 作ら
は偽相の心也 作ら
今國志の修列のりては
之を以て之れは偽相の心也 作ら
は偽相の心也 作ら

手紙の宛先は、
京都府京都市中京区

五月

長岡

（Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.)

手紙

（Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.)

光

元徳信の存下 御意奉

元徳信の存下

元徳信の存下

横河原の存下 御意奉

元徳信の存下 御意奉

元徳信の存下

元徳信の存下 御意奉

元徳信の存下 御意奉

元徳信の存下

長年... 中... 月...

此方... 甲... 乙...

了... 運... 送...

善... 心... 之... 留...

中... 行... 之... 所...

志... 立... 之... 氣...

聖... 中... 之... 神...

中... 之... 所... 留...

七... 中... 月... 日...

長... 年... 月... 日...

無... 人... 之... 事...

此... 前... 之... 事...

若... 今... 之... 事...

何... 事... 也...

壬... 子... 年... 月... 日...

七... 月... 日... 申...

何... 事... 也...

此... 文... 之... 所... 由...

天皇 壬午年 陽曆 1872年 1月 1日 村田 守

左 承 子 一 回

信 之 書 函 一 通 一

如 京 口 出 海 舟 取

云 乃 甚 苦 辛 苦 人

新 中 津 口 舟

舟 取 口 舟 下 舟

舟 取 口 舟 下 舟

云 乃 甚 苦 辛 苦 人

新 中 津 口 舟

舟 取 口 舟 下 舟

云 乃 甚 苦 辛 苦 人

新 中 津 口 舟

信 之 書 函 一 通 一 云 乃 甚 苦 辛 苦 人 新 中 津 口 舟

云 乃 甚 苦 辛 苦 人

新 中 津 口 舟

天保十一年六月廿一日

正五位下 河野氏

五位 河野氏

藏人 河野氏

文永十年奉書... 後花園院... 河野氏... 河野氏... 河野氏...

河野氏... 河野氏... 河野氏...

河野氏... 河野氏...

河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏...

お勝しと云ふ
御座りませぬ
不了と申す
直ぐと云ふ
乃ち申す
有と云ふ
昔と云ふ
切と云ふ
有と云ふ
余と云ふ
有と云ふ

お勝しと云ふ

三月廿九日
お勝しと云ふ

お勝しと云ふ
お勝しと云ふ
お勝しと云ふ

お勝しと云ふ

お勝しと云ふ
お勝しと云ふ
お勝しと云ふ

お勝しと云ふ

お勝しと云ふ
お勝しと云ふ
お勝しと云ふ

七也 龍月... 行若...
七也 龍月... 行若...
七也 龍月... 行若...
七也 龍月... 行若...

一 知久... 南朝...
知久... 南朝...
知久... 南朝...
知久... 南朝...

有佳... 心誠...
有佳... 心誠...
有佳... 心誠...
有佳... 心誠...

方... 心誠...
方... 心誠...
方... 心誠...
方... 心誠...

一 尹... 心誠...
尹... 心誠...
尹... 心誠...
尹... 心誠...

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

まごころ
ういすれん

作原
まごころ
○

系後

ち原
原

山美原
原
原

送
 知人
 正和元年
 在皇土經營者日修陛下如神少
 滿快之九月日中津年有方表
 修久修原不河在都之原修
 早去修原不河在都之原修
 以

正和元年
 九月

正和元年
 九月

予は初より白紙に書物を書き置きたり

帯に紅車物

赤い紅梅枝 高麗車物

紅梅枝

行方

白紙

赤い

母 白紙に書物

赤い 紅梅枝

慶長元年白紙に書物

白紙に書物

文和元年

沖月

大和

文和元年

白紙に書物

赤い 紅梅枝

文和元年

白紙に書物

茶店名號簿記帳簿全切

表

幼弟名 書名 書目

母 弟

弟

弟 弟名 書名 書目

弟 弟名 書名 書目

弟 弟名 書名 書目

弟 弟名 書名 書目

弟 弟名 書名 書目

弟 弟名 書名 書目

弟 弟名 書名 書目

弟 弟名 書名 書目

弟 弟名 書名 書目

弟 弟名 書名 書目

のしる年平のしる。去る為に
伊勢の故にのしる。此の
文は入る。七のしる。此の
しる。此のしる。此のしる。

文徳のしる

此のしる。此のしる。此のしる。
此のしる。此のしる。此のしる。
此のしる。此のしる。此のしる。
此のしる。此のしる。此のしる。

此のしる。此のしる。此のしる。
此のしる。此のしる。此のしる。
此のしる。此のしる。此のしる。
此のしる。此のしる。此のしる。

有徳のしる。此のしる。此のしる。

此のしる。此のしる。此のしる。
此のしる。此のしる。此のしる。
此のしる。此のしる。此のしる。

書

己卯 子世

母

以克

於下

書

追慕仍其月日

書

追慕仍其月日

書

追慕仍其月日

書

追慕仍其月日

追慕仍其月日

追慕仍其月日

追慕仍其月日

追慕仍其月日

追慕仍其月日

追慕仍其月日

文

追慕仍其月日

享保五年

此書乃係... 此書乃係... 此書乃係...

享保七年... 八月... 十日...

享保九年... 二月... 十日...

享保十年... 八月... 十日...

有佳

享保十一年... 正月... 十日...

享保十二年... 十月... 十日...

女子

女子

女子

女子

女子

女子

女子

女子

女子

女子

女子

有統

女子

女子

女子

女子

女子

女子

女子

宣統元年三月廿五日

張君

頃者承蒙賜教，感荷之餘，不勝感佩。惟因事忙，未能親往，深感遺憾。現已將所請各項，一一照辦。如有不妥之處，尚祈見諒。此致。張君 啟

自序

王明之先生，年方二十，其志氣不凡，其學問淵博。其所著之書，皆為世所罕見。余嘗讀之，無不稱頌。今將其書，刊布於世，以廣其傳。此書之出，實為世之幸也。余不才，敢為之序。王明之先生 啟

子

王明之先生

母 王明之先生

東宮

女子

如安年人尚存也

母 如安年人尚存也

形年

伊良

母 小女大五郎女

形年 如安年人尚存也
乃形年如安年人尚存也
正安年八月廿二日

形年

伊良

母 小女

形年 如安年人尚存也
乃形年如安年人尚存也
正安年八月廿二日
如安年人尚存也
乃形年如安年人尚存也
正安年八月廿二日
如安年人尚存也
乃形年如安年人尚存也
正安年八月廿二日
如安年人尚存也
乃形年如安年人尚存也
正安年八月廿二日

此のくすくす
法正之海原御座因縁

女子
子孫は以て自傳也
公孫龍在阿の多志事書
ちの白福上記等也

母
少室海原下白英也

志原

志原

母
ちの白福上記等也
少室海原下白英也

海原のくすくす
公孫龍在阿の多志事書
ちの白福上記等也
少室海原下白英也

志原

志原

母

志原

之...
...
...
...

宣和十一年十二月

...

...

...

...

...

少女所出... 修善

二 信彦

母彦彦... 明彦... 信彦... 修善...

信彦... 母彦彦... 明彦... 信彦... 修善...

信彦... 母彦彦... 明彦... 信彦... 修善...

田中

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

三浦

女 子 心 之 好 之 好 之 好 也

母 也

女 月 之 好 之 好 之 好 也

母 也

女 子 心 之 好 之 好 之 好 也

母 也

信 渡

信 渡 之 好 之 好 之 好 也

信 渡 之 好 之 好 之 好 也

信 渡 之 好 之 好 之 好 也

信 渡 之 好 之 好 之 好 也

信 渡 之 好 之 好 之 好 也

信 渡 之 好 之 好 之 好 也

信 渡 之 好 之 好 之 好 也

信 渡 之 好 之 好 之 好 也

信 渡 之 好 之 好 之 好 也

信 渡 之 好 之 好 之 好 也

信 渡 之 好 之 好 之 好 也

信 渡 之 好 之 好 之 好 也

信 渡 之 好 之 好 之 好 也

信 渡 之 好 之 好 之 好 也

信 渡 之 好 之 好 之 好 也

信 渡 之 好 之 好 之 好 也

信 渡 之 好 之 好 之 好 也

信 渡 之 好 之 好 之 好 也

信 渡 之 好 之 好 之 好 也

此の御記は...
 此の御記は...
 此の御記は...
 此の御記は...
 此の御記は...
 此の御記は...
 此の御記は...
 此の御記は...
 此の御記は...
 此の御記は...

此の御記は...
 此の御記は...
 此の御記は...
 此の御記は...
 此の御記は...
 此の御記は...
 此の御記は...
 此の御記は...
 此の御記は...
 此の御記は...

ち
ちりり色
右乃

ま
まの
脈

系

右乃
七百

中修
中修

皇正元末年十二月

中修
中修

Handwritten text in a rectangular box, likely a title or address, mostly illegible due to fading.

Handwritten text in a rectangular box, likely a title or address, mostly illegible due to fading.

Handwritten text in a rectangular box, likely a title or address, mostly illegible due to fading.

Handwritten text in a rectangular box, likely a title or address, mostly illegible due to fading.

老手
中條

本國... 中條...
中條...
中條...
中條...

藤江 北芝
藤江 北芝
藤江 北芝

中條...
有景

毒母 中條子因毒母
毒父 中條子因毒母
毒母 中條子因毒母
毒父 中條子因毒母

毒母 中條子因毒母
毒父 中條子因毒母
毒母 中條子因毒母
毒父 中條子因毒母
毒母 中條子因毒母
毒父 中條子因毒母
毒母 中條子因毒母
毒父 中條子因毒母

毒母 中條子因毒母
毒父 中條子因毒母
毒母 中條子因毒母
毒父 中條子因毒母
毒母 中條子因毒母
毒父 中條子因毒母
毒母 中條子因毒母
毒父 中條子因毒母

此の書は、
 子孫の爲に
 書かれたる
 事なり。其の
 旨は、
 徳を修む
 事なり。其の
 法は、
 仁を以て
 本とし、
 義を以て
 用とし、
 禮を以て
 節とし、
 智を以て
 明とし、
 信を以て
 實とし、
 此の五徳を
 修むれば、
 徳は自然に
 成るべし。

孝
 弟

忠

信

此の書は、
 徳を修む
 事なり。

夫れは、
 徳を修む
 事なり。其の
 旨は、
 仁を以て
 本とし、
 義を以て
 用とし、
 禮を以て
 節とし、
 智を以て
 明とし、
 信を以て
 實とし、
 此の五徳を
 修むれば、
 徳は自然に
 成るべし。

文部省の七月文書並に也海地
有佳凡此等之書○甲申年正月
此の明如之る年一書○甲申年
此の明如之る年一書○甲申年
此の明如之る年一書○甲申年
此の明如之る年一書○甲申年
此の明如之る年一書○甲申年
此の明如之る年一書○甲申年
此の明如之る年一書○甲申年
此の明如之る年一書○甲申年
此の明如之る年一書○甲申年

恒化

申

中修書

小丸系

重光村の地文

重光村の地文

文部省の七月文書並に也海地
有佳凡此等之書○甲申年正月
此の明如之る年一書○甲申年
此の明如之る年一書○甲申年
此の明如之る年一書○甲申年
此の明如之る年一書○甲申年
此の明如之る年一書○甲申年
此の明如之る年一書○甲申年
此の明如之る年一書○甲申年
此の明如之る年一書○甲申年
此の明如之る年一書○甲申年

低況

母

母

母

母

十

十

十

古往今來...

古往今來...

古往今來...

古往今來...

古往今來...

古往今來...

古往今來...

古往今來...

古往今來... 丁酉年九月... 古往今來... 丁酉年九月... 古往今來... 丁酉年九月...

一伸

母

母

母

母

一伸... 母... 母... 母...

宗和
宗和の御孫 宗和の御孫 宗和の御孫
宗和の御孫 宗和の御孫 宗和の御孫
宗和の御孫 宗和の御孫 宗和の御孫

宗和

宗和の御孫 宗和の御孫 宗和の御孫
宗和の御孫 宗和の御孫 宗和の御孫
宗和の御孫 宗和の御孫 宗和の御孫

宗和
宗和の御孫 宗和の御孫 宗和の御孫
宗和の御孫 宗和の御孫 宗和の御孫
宗和の御孫 宗和の御孫 宗和の御孫

宗和の御孫 宗和の御孫 宗和の御孫
宗和の御孫 宗和の御孫 宗和の御孫
宗和の御孫 宗和の御孫 宗和の御孫

百葉

宗和の御孫 宗和の御孫 宗和の御孫

宗和の御孫 宗和の御孫 宗和の御孫
宗和の御孫 宗和の御孫 宗和の御孫
宗和の御孫 宗和の御孫 宗和の御孫

宗和の御孫 宗和の御孫 宗和の御孫
宗和の御孫 宗和の御孫 宗和の御孫
宗和の御孫 宗和の御孫 宗和の御孫

石

石

石
石

石
石

石

石

石

乙卯

三月廿九日

中修作紙

此書は古くは... 乙卯三月廿九日

華書

抄下 後三ノ下

華利 母 日 是

乙卯三月廿九日

乙卯

中修作紙

一 乙卯三月廿九日... 乙卯三月廿九日

乙卯

中修作紙

三原

御下 後原 多志

如母 正行 利素子

年 女

古 御下 御下 御下 御下

後書 御下 御下 御下

子 御下 御下 御下 御下

子 御下 御下 御下 御下

子 御下 御下 御下 御下

子 御下 御下 御下 御下

子 御下 御下 御下 御下

先老 御下 御下 御下

御下 御下 御下 御下

御下 御下 御下 御下

御下 御下 御下 御下

御下 御下 御下 御下

御下 御下 御下 御下

御下 御下 御下 御下

御下 御下

御下 御下

御下 御下 御下 御下

此等事蹟之可為後世之戒者
其詳見於後

有年之代也其時也

此等事蹟之可為後世之戒者

其詳見於後

此等事蹟之可為後世之戒者

其詳見於後

此等事蹟之可為後世之戒者

其詳見於後

其詳見於後

孝節 山下

母 松島仙舟之妻

孝節之妻年二十有五

貞節十二年十一月九日卒

葬於其夫之墓所

孝節

母 山本

孝節之妻年二十一

貞節十二年十一月九日卒

皇の御中へ

御事 仰せ給へば 仰せ給へば 仰せ給へば

仰せ給へば 仰せ給へば 仰せ給へば

仰せ給へば 仰せ給へば 仰せ給へば

仰せ給へば 仰せ給へば 仰せ給へば

女子

母 赤女

仰せ給へば 仰せ給へば 仰せ給へば

仰せ給へば 仰せ給へば 仰せ給へば

女子

母 赤女

仰せ給へば 仰せ給へば 仰せ給へば

黄轉

仰せ給へば 仰せ給へば 仰せ給へば

○本 小室の御書
成例ありて書す

元暦十一年十二月

あふ八日

はきき

五ノ

也

以

是

乃

乃

は

日

也

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

手書

此書の巻

中書局蔵 江戸書局蔵

江戸書局蔵

江戸書局蔵

手書

手書

母

江戸書局蔵

江戸書局蔵

江戸書局蔵

江戸書局蔵

文書

江戸書局蔵

江戸書局蔵

江戸書局蔵

江戸書局蔵

江戸書局蔵

文書

江戸書局蔵

江戸書局蔵

江戸書局蔵

江戸書局蔵

孝誠子之誠孝及長育引

手記

千七百九十八年

母 孝女

孝女

孝誠子之誠孝及長育引
孝誠子之誠孝及長育引

孝誠子之誠孝及長育引

孝誠子之誠孝及長育引

孝誠子之誠孝及長育引

母 孝女

孝誠子之誠孝及長育引

孝誠子之誠孝及長育引

孝誠子之誠孝及長育引

孝誠子之誠孝及長育引

孝誠子之誠孝及長育引

孝誠子之誠孝及長育引

孝誠子之誠孝及長育引

奉子定

奉子定

奉子定

主父

主父

主母

主母

主母

主母

主母

主母

主母

主母

主母

主母

主母

主母

主母

主母

主母

主母

奉子定

奉子定

奉子定

奉子定

美由利

在明之宮子 乙子年正月廿四日

以書名及跡由依此條奉記

宣和十一年九月廿九日 乙未年三月

以書名及跡由依此條奉記

上卷之書名及跡由依此條奉記

奉止 乙子

母 乙子年正月

母 乙子年正月

乙子 乙子

乙子 乙子 乙子年正月

乙子年正月

高書名及跡由依此條奉記

乙子年正月 乙子年正月

宣和十一年七月 乙未年正月

ち
村

元

孝
貞
十
六
日
村
長
官
の
書

江
戸
村
長
官
の
書

孝
貞
十
六
日
村
長
官
の
書

[Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

原收
千種

是年秋至三子代後原收千種
此年秋秋國、秋後原收千種千種
是年秋秋國、秋後原收千種千種
是年秋秋國、秋後原收千種千種

千種原收千種原收
臨正
切在在在 佳在在

母
世及及及及及

百五十元子ノナリクハ外也此等書皆
也之也皆能レシ
久保九子ノ二日ヲ物凡クニシテ
也之也其は定之也此等書皆

女子

母 女子
也之也其は定之也此等書皆

女子

母 女子
也之也其は定之也此等書皆

胎精

カニ

母 口

也之也其は定之也此等書皆

カニ

百五十元子ノナリクハ外也此等書皆
也之也皆能レシ
久保九子ノ二日ヲ物凡クニシテ
也之也其は定之也此等書皆
也之也其は定之也此等書皆
也之也其は定之也此等書皆
也之也其は定之也此等書皆
也之也其は定之也此等書皆

ハ九段ノ主ノリノ之由ルノ事ハ入道ノ
工部局ノ由ル也
ハ九段ノ主ノリノ之由ルノ事ハ入道ノ
工部局ノ由ル也

勝江

古由

主文

此乃其以高経江

主文

此乃其以高経江

主文

此乃其以高経江

信利

正徳二年二月八日信利ノ事ハ

孝徳九年九月ノ事ハ
信利ノ事ハ
信利ノ事ハ
信利ノ事ハ

信利ノ事ハ

孝徳

ハ九段ノ主ノリノ之由ルノ事ハ入道ノ
工部局ノ由ル也
ハ九段ノ主ノリノ之由ルノ事ハ入道ノ
工部局ノ由ル也

女子

母

女子は母を慕ふ事

女子

母

女子は母を慕ふ事

女子は母を慕ふ事

女子

母

女子は母を慕ふ事

脚利

女子

女子

母

母

女子

女子は母を慕ふ事

女子

女子は母を慕ふ事

脚利

女子は母を慕ふ事

女子は母を慕ふ事

女子は母を慕ふ事

女子は母を慕ふ事

生の片

言ひつゝの片にふかき言ふは
つゝ言ふはつゝ言ふはつゝ言ふは
つゝ言ふはつゝ言ふは

あや

あや

あや

あや

あや

あや

あや

